

腫瘍組織の分子イメージング研究

1. 研究の対象

2002年1月1日から2024年3月31日までの期間に、国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科で診断や治療を受けた胸部悪性腫瘍（肺がん、胸腺がん、悪性胸膜中皮腫など）の患者さん、もしくは脳脊髄腫瘍科で診断や治療を受けた脳腫瘍患者さんのうち、国立がん研究センターの包括的同意に同意頂いている診療残余検体、もしくは「脳腫瘍に対する新規治療法開発ならびに治療耐性克服を目指す初代培養脳腫瘍細胞を用いた基礎的研究（研究課題番号：2007-086、研究責任者：成田善孝）」に同意頂き、その研究で収集した試料の残余試料が利用可能な患者さんが対象となります。

2. 研究目的・方法

現在の進行・再発期のがんに対する治療は、抗がん剤治療が主体となっています。近年様々な抗がん剤が開発され、がん患者さんのお元気にお過ごしいただける時間が長くなっていますが、それでもやはり、どんな薬剤でも治療がいつか効かなくなることは避けられません。

抗がん剤が効く、効かない原因を解明するために遺伝子検査や蛋白検査など、様々な試みが行われ、効かなくなる原因も少しずつ解明されてきています。しかし効かなくなる理由は多種多様であり、全てがはっきりしているわけではありません。このため、我々はがん組織の中の抗がん剤の分布や、がんの特徴的な蛋白・核酸がどこに分布しているのかを明らかにすることで、抗がん剤の効く・効かない原因を明らかにできないかという試みを進めております。

具体的には、がん組織を質量分析装置を用いてどこにどのような蛋白などが分布しているのかという解析や、蛍光物質を用いて抗がん剤がどのように分布するのかを解析しています。このような、目では見えないものを可視化する技術のことを分子イメージングと言います。

この研究では国立がん研究センター中央病院呼吸器内科・脳脊髄腫瘍科で治療を受けた胸部悪性腫瘍患者さん・脳腫瘍患者さんを対象として、包括的同意のもと保管された診療残余試料などを解析し、臨床情報と見合わせることで治療選択の一助となることを期待しています。なお、本研究の一部はコニカミノルタ株式会社よりの資金提供を受けて実施します。

研究実施期間：研究許可日から2025年3月31日（5年間）

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：包括的同意に同意を頂いている診療残余検体および先行研究への同意が得られ当該研究で収集された試料の残余試料（病理組織、凍結未固定組織）

情報：腫瘍の情報（ステージ、がん種など）、身体所見、血液検査、画像検査の結果、治療の効果など

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

国立がん研究センター研究所 分子薬理研究分野 濱田 哲暢

柳下 薫寛

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 吉田 達哉

白澤 昌之

国立がん研究センター中央病院 脳脊髄腫瘍科 成田 善孝

高橋 雅道

がん研究会有明病院 先端医療開発センター がん免疫治療開発部 北野 滋久

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先（研究責任者・研究代表者）：

国立がん研究センター研究所 分子薬理研究分野 濱田哲暢

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL : 03-3542-2511